

一九八〇年世界農林業センサス結果から

昭和五十五年二月一日実施

県内トツプの優良農業地帯

それでも進行する農外流出と老齢化

農業の実態をつかむため、昭和二十五年以降五年ごとに行われている統計調査「世界農林業センサス」の昨年二月一日現在で調査が行われ、その結果がまとまりました。今月号はその一部を紹介し、あらためて白根市の基幹産業「農業」を、みんなで考えてみましょう。



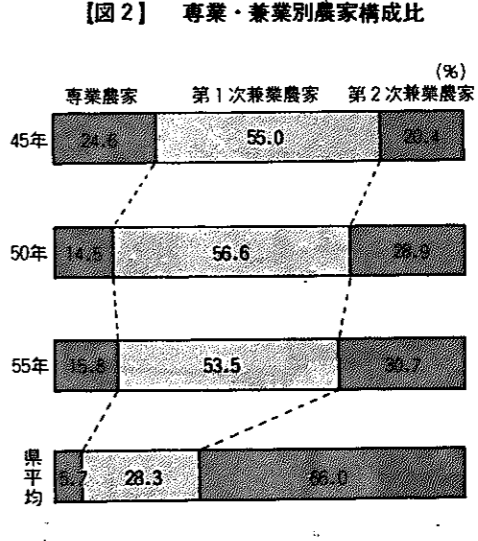
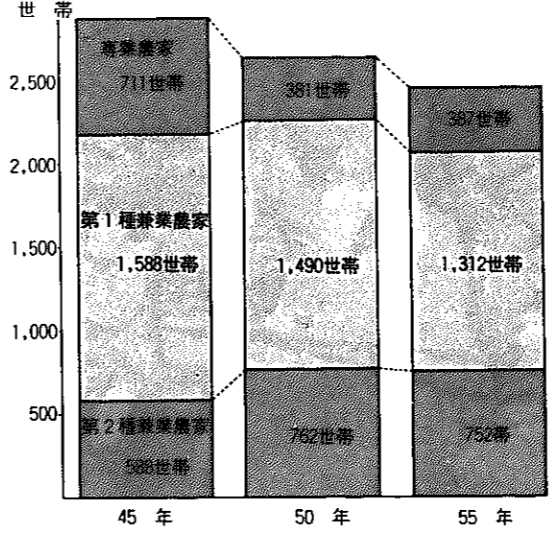
田植えもいまではすっかり機械化。余剰労働力は徐々に農外流出し、恒常的勤務に

専業農家率は県内一位の一五・八%

昨年二月一日現在の農家戸数は二千四百五十一戸、農家人口は一万三千九百二十人で、前回の五十年調査時と比べると、百八十二戸、六・九%減少（県六・四%）、千二百三十三人、七・五%減少（県八・二%）していましたが、この数字から五年ごとに約二百戸の農家が離農していますが、この減少傾向はほぼ安定し、今後は徐々に横バイ状態で推移するものと思われま

す。一方、兼業農家は減少しています。兼業形態はこれまで最も

農家数の動き



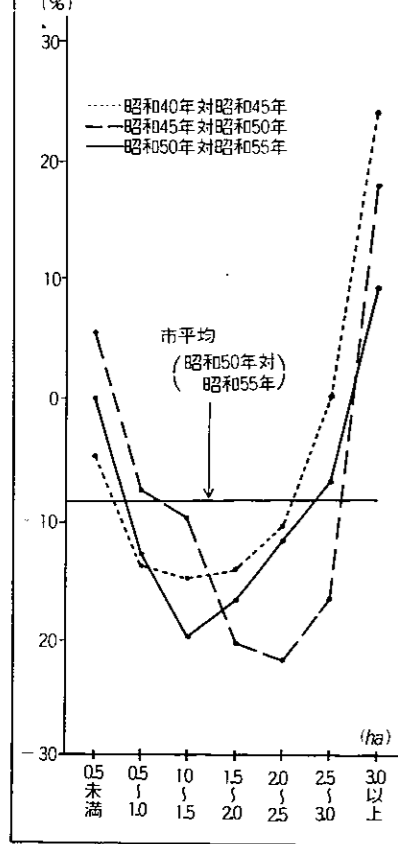
一九八〇年 世界農林業センサスとは 我が国農林業の生産構造、農林業生産の基礎となる諸条件などを総合的に把握することによって、農林業の現状と動向を明らかにし、農林行政諸施策と農林業に關して行う諸統計調査に必要な基礎資料を整備することにも、国際連合食糧農業機構（FAO）が提唱する「一九八〇年世界農林業センサス計画」に参加し、農林業の国際比較に必要な統計を整備することを目的として実施されたものです。

調査日 昭和五十五年二月一日

用語の説明 農家 十町以上の農業を営む世帯および経営耕地面積がこれ未満でも、調査期日前一年間の農産物販売額が十万円以上の世帯 専業農家 世帯員中に兼業従事者が一人もいない農家 第1種兼業農家 自家農業を主とする兼業農家 第2種兼業農家 自家農業を従とする兼業農家

さしあげます 世界農林業センサス結果集「白根市の農業」をさしあげます。希望者は、企画財政課統計調査係（☎22-1108）へ。

【図3】 経営耕地規模別にみた農家数の対前回増加率



男子就業者は五〇%を割り老齢化も進む 農業就業者は、兼業従事者の増加に伴い、減少してきています。特に十六歳から十九歳の若年層ではこの傾向が強く、逆に五十歳以上では微増しており、農業労働者の老齢化現象が起こっています。

男女別の特徴は、男子の場合、農業にたずさわっているが兼業が主であるものの増加が著しい。また、男子就業者は男子十六歳以上農家世帯員の五〇%

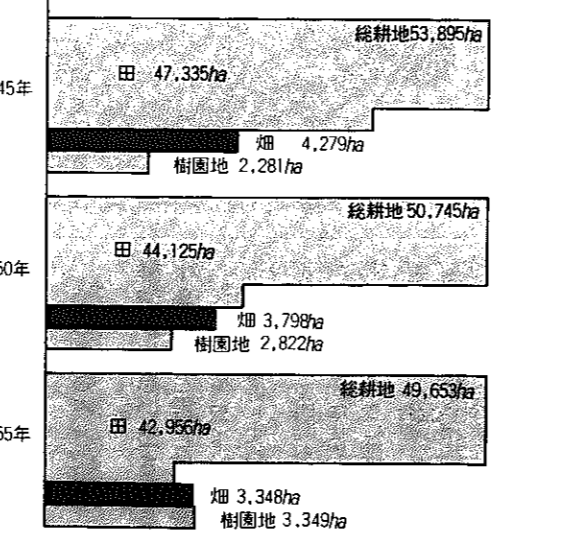
多かつた日雇いや臨時雇いから、半永久的に他の職業に勤める傾向にあり、農家の選別が安定兼業を求めているといえます。

このことは、第一種兼業農家において恒常的勤務にたずさわることが増大して、約五〇%を占めていることからうかがえます。今後は、第一種から相当数の所得の安定した第二種兼業農家へ、移行することが考えられます。

を割っています。女子の場合は男子とほぼ同率の減少であるものの、男子就業者を上回っており、男子就業者の減少を肩代りしているようにも思えます。

これらの傾向は、農業機械の普及による農業労働力の軽減や生産調整、農産物価格の低迷による農業意欲の減退などによるものと思われま

【図4】 地目別の土地利用状況



中規模農家が減り 大・小規模に分解 経営耕地面積別農家数では、四十五年以降、小規模農家と大規模農家の構成比が年々増加しています。この傾向は、農産物販売金額からみた農家数においても、同様の傾向がみられ、生産性の高い大規模農家が生まれきています。【図3参照】

樹園地面積が増加 畑面積を上まわる 田の面積は、転用や水田利用再編による田畑転換のために、徐々に減少してきています。栽培

畑面積は減少傾向にあるが、転作により作付した面積を考えると、それほど減少は少ないものと思われま

増戸数も、四十五年から五十年が、一〇%、五十年から五十五年が一〇%と大幅な減少を示しています。これは小規模農家の経営委託や水稲以外の作目の専業化が考えられます。



市農政課長 児玉 博

農産物は過剰さみであり、消費も伸び悩み、農業資材、肥料や飼料も高騰するなど、厳しい農業環境におかれています。複合経営型農業を追求し、不足する農産物生産と、生産者の節減のために努力してほしいと思います。経営規模の拡大と、組織化を図っていくことが大切でしょう。

県内のどの市町村よりも農業構造が強固で、他市町村に比べて後継者にも恵まれています。近郊の農業地帯という有利な条件をいかし、総合的食糧基地として発展させたいと考えています。



新飯田下中村 小菅正吾さん

からの農業を切り切つてはいけません。思いきった転換が必要な時期だと思ひます。兼業農家は土地を売ること考えず、専業農家に土地を貸与、専業農家は徹底した省力化、協業化、複合化を図り、できるだけコストの低い農産物の生産に努めたいものです。二夫婦半の労働力があれば、私は園芸作物を専業化していく方がよいと思ひます。



白根農業改良普及所長 寺尾昭治さん

兼業化はますます進むはずですが、中核農家に委託するなどして、安定兼業農家を育成していく必要があるでしょう。

専業農家は、転作で減らされた分を、複合化や規模拡大、集団化を進めていくことが大切です。補助金や奨励金などそのうちになくなるはずですが、それまでの間に、複合経営を定着しておきたいものです。

稲作では米価の上昇も期待できません。資材も上昇しています。徹底した合理化が必要でしょう。一番の基本は村づくりです。厳しい農業情勢にも、白根市は十分に耐えうる力を持っています。